

## 21世紀環境立国戦略に関する今後の課題について：森本幸裕

生物多様性の保全は、今年のG8環境大臣会合において議題の一つとして取り上げられる予定であり、地球温暖化対策と並んで国際的に重要な課題であることから、今後の環境立国戦略の展開にあたっては、特に戦略2「生物多様性の保全による自然の恵みの享受と継承」に力を入れていく必要がある。いま危機に瀕する生態系への対応とともに、「100年かけて回復」する長期的視点まで、重層的取組みが必要である。世代を超えた長期的な安全性と効率性に寄与する生物多様性は、他の環境戦略とトレードオフも存在し、国内外の政策インターリンケージに留意が必要である。また、政策や企業活動全般に生物多様性保全の内部化が必要であり、個々のテーマでは生物多様性に配慮した「研究開発・担い手人材育成・パイロット事業」を統合的に取組むプラットフォーム構築が有効である。前回提出した意見に加えて、補足として以下の点について指摘したい。

### 民間参画の推進

生物多様性の重要性を社会に浸透させるためには、国だけでなく、地方自治体、企業、NGO等の多様な主体による取組が各地で進められることが不可欠。特に、企業は生物多様性に大きな影響を与える存在であることから、新たな自然資源産業を含む、生物多様性保全に関する多様な取組への企業の参画促進が重要。

### 自然資源の新たな協働管理事例の提示

自然共生社会づくりを世界に提案する上では、現代の社会経済的ニーズを反映した新たな協働管理の事例を示す必要がある。このため、里地里山において、伝統文化と生物多様性を保全しつつ、環境教育の場やバイオマスの利用など新たな利活用方策を検討するとともに、都市住民や企業など多様な主体の協働により管理し、持続的に利用する枠組みを構築することなどが重要。

### 次期世界目標の策定にむけた取組

生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の日本開催を契機として、生物多様性2010年目標の達成及び次期世界目標の検討等に積極的に貢献し、生物多様性保全について国際的なリーダーシップを発揮することが重要。

### 国境を超えた生態系ネットワークの形成

生物多様性の保全を効果的に進めるためには国際協力が不可欠。国境を超えて広域を移動する渡り鳥やウミガメなど、地球規模の生態系のつながりを踏まえて世界的な生態系ネットワークを形成し、国際協力によりその保全に取り組むことが重要。